

II 道路改良事業：主要地方道吉田豊栄線（向原吉田道路）

（1）事業概要

- ① 事業箇所 安芸高田市向原町～安芸高田市吉田町
- ② 規模等 道路延長：4,500m 車道幅員：7.0m（全幅員：12.0m）
- ③ 全体事業費 15,000百万円（前回の再評価時は12,000百万円）
- ④ 工期 平成17年度～令和6年度（前回の再評価時と同じ）

（2）再評価の事由

前回の再評価後5年が経過した時点で継続中の事業であるため

（3）審議内容

① 事業の内容と必要性

東広島高田道路は、山陽自動車道と中国縦貫自動車道を連絡し、県内の北部地域と南部地域の広域的な交流の促進に寄与するとともに、県中央部地域と広島空港を結ぶフライト軸としての機能も備えた約40kmの地域高規格道路である。

路線を構成する区間のうち、安芸高田市向原町～吉田町間の約5kmは、現道の平面・縦断線形も悪く、特に冬期は凍結により交通に支障をきたしている。

こうした交通障害の解消を図るとともに、安芸高田市の拠点連絡機能の強化を目的として、当事業を推進していく必要がある。

② 事業を巡る社会情勢及び必要性等の変化

国勢調査によれば、安芸高田市の人口は、平成22年度の31,487人に対し、平成27年度は29,488人と減少しているが、平成27年度の道路交通センサス4,658台/日に対して、令和12年度の計画交通量が6,700台/日と交通量の増加が想定される状況となっている。

また、本事業区間は、広島県第二次緊急輸送道路（広島県緊急輸送道路ネットワーク）に位置づけられており、大規模災害時に救命活動・物資輸送などを迅速かつ確実に実施するための安全・安心の確保という、数値に現れない効果が期待され、本事業の必要性についての変化はないと判断する。

③ 進捗状況と今後の見通し

事業は計画通り進捗しており、令和6年度の事業を完了に向け、順調に工事が進んでいる。

④ 事業費の増減と現時点での費用便益比

全体事業費が150億円となっており、前回の再評価時と比較し、30億円増加している。これは、トンネル工事において、現地詳細調査による支保パターンの変更、補助工法の追加、基準改定による急結剤の仕様変更、切羽安全対策の追加、トンネル設備の仕様変更等、関係者協議による防音設備やフリッカ抑制対策の追加が生じたことによるものである。

費用便益比B/Cについては、「費用便益分析マニュアル（H30.2国土交通省道路局 都市・地域整備局）」に準拠して行われた分析によれば、評価期間を供用開始後の50年間、社会的割引率を4.0%とした結果、前回の1.6（総便益（B）：173.4億円、総費用（C）：106.8億円）から1.4（総便益（B）：217.9億円、総費用（C）：155.4億円）と減少している。その主な理由は、全体事業費の増額によるものである。

⑤ 地元からの要望

地元の安芸高田市からは、向原吉田道路は、広域的な道路ネットワークの強化を図るとともに、合併支援道路として安芸高田市の一体的な発展を実現する上で重要な社会基盤であり、さらなる整備促進と早期完成を強く望んでいる。

(4) 結論

事業の必要性と費用便益比を勘案し、当該事業の継続実施については適当と判断する。

関係各位には、予定としている令和6年度までに事業を完了させ、計画どおりの事業効果が得られるよう、一層の努力をお願いします。